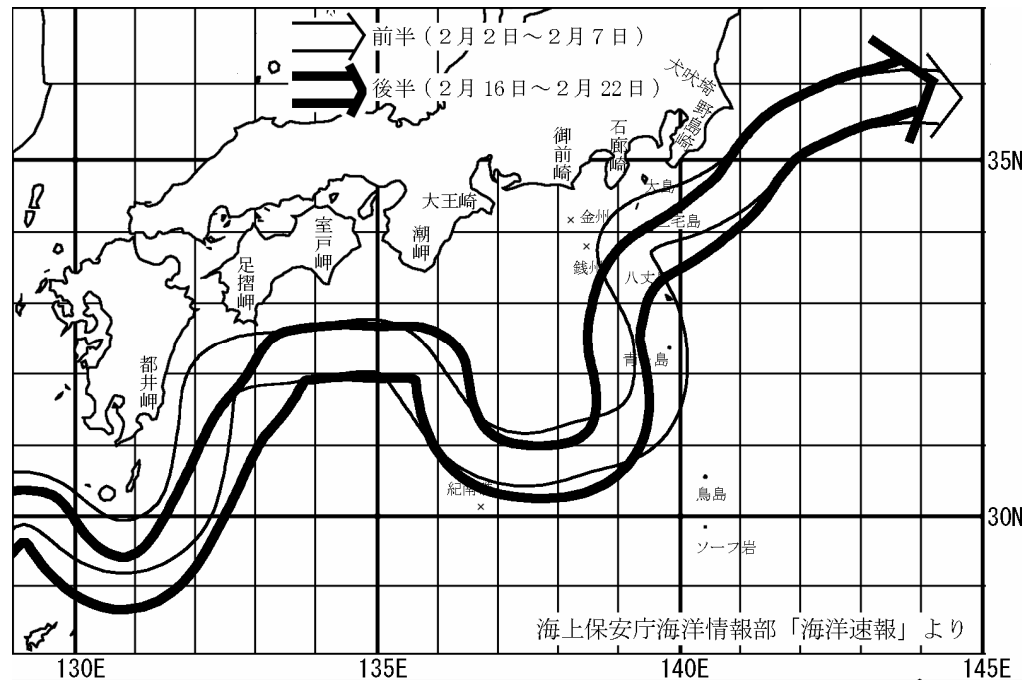


漁海況月報

平成 17 年 2 月 1 日

No. 2 ~2月28日

静岡県水産試験場
(電話 054 627 4815)
静岡県水産試験場伊豆分場
(電話 0558 22 0835)



[黒潮流路]

黒潮は、月を通じてA型流路で伊豆諸島の西側を北上、三宅島付近を通過し房総半島に接岸して流れていた。中旬に北上部は伊豆列島線上でS字状に蛇行し一時的に八丈島の東を北上した。下旬以降、内側反流は弱まり駿河湾内への暖水波及が減少した。

[県下沿岸域]

県下の定地水温は、相模湾側では14~15台、駿河湾東部では13~16台、駿河湾西部では10~15台で経過した。県内各地の定地水温は、地頭方(平年並み~やや低め)を除いて、平年並み~高めで経過した

[竿釣近海カツオ]

2月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海カツオの水揚量は544トンで前年同期の74%であった。魚価は376円/kgで、前年同期を若干上回った。

中型竿釣船は19°~27°N、133°~142°Eで大、特大、特々大、中、小、極小カツオを漁獲した。

竿釣近海カツオ水揚量 (県内主要5港)

期 間	水揚量 (トン)	水揚 隻数	水揚量 / 隻 (トン)	平均単価 (円 / kg)
17年2月上旬	143	8	17.8	333
中旬	169	13	13.0	393
下旬	233	19	12.2	390
17年 2月計	544	40	13.6	376
16年 2月計	735	38	19.3	351
15年 2月計	1,338	42	31.9	185

[サバたもすくい棒受網]

小川港には マサバ11トン、ゴマサバ449トン、合計460トンの水揚げがあった。マサバは主に新島近海で、ゴマサバは三宅島近海を中心に漁獲され、その大きさはそれぞれ、35~40cm、22~25cmの大きさであった。1kg当たりの平均単価は、マサバ619円、ゴマサバ41円であった。

小川港 サバ類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量

期 間	水揚量 (トン)	日数	延隻数	1隻当り (トン)	漁 場
平成17年 上旬	191	2	8	23.9	三宅
2月 中旬	221	2	8	36.8	三宅、新島
下旬	48	3	6	8.0	三宅、新島
計	460	7	20	23.0	- - - - -
平成16年2月	684	9	35	19.5	三宅、利島
平成15年2月	867	15	55	15.7	三宅、三本、利島

2005年2月

定地水温の旬平均値()

(下段は偏差)

期 間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上 旬	14.2	14.9	14.8	15.2	14.3	15.4	10.9
	0.2	0.5	1.1	0.8	0.3	1.8	-0.6
中 旬	14.5	14.5	14.5	15.4	15.2	14.9	11.1
	0.6	0.4	0.8	1.2	1.2	1.5	-0.5
下 旬	14.2	14.5	14.4	15.4	15.1	15.0	11.3
	0.5	0.5	0.8	1.0	1.4	1.6	-0.3
月平均	14.3	14.7	14.6	15.3	14.8	15.1	11.1
	0.4	0.4	0.9	1.0	0.9	1.7	-0.5

[まき網]

小川港では、マイワシは2.1トン水揚され、平年同期（過去5か年平均：81.2トン）の3%と低調であった。カタクチイワシは121.5トン水揚され、平年同期（1.1トン）と比べ好調であった。

沼津港では、マイワシは23.0トン水揚され、平年同期（111.5トン）の21%と低調であった。カタクチイワシは水揚されなかった。

静浦港では、マイワシは水揚されなかった。カタクチイワシは0.1トン水揚され、平年同期（51.9トン）と比べ低調であった。

伊東港では、マイワシ、カタクチイワシともに水揚されなかった。

[定置網]

平成17年2月、伊豆半島東岸大型定置網8か統（伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）における水揚量は451トンであった。1漁場当たり水揚量56.4トンは、前年28.9トンの2.0倍、平年値（昭和57～平成16年平均値）21.8トンの2.6倍であった。

魚種別にみると、カタクチイワシ408トン（前年の5.0倍、平年の9.6倍） サバ類13.8トン（前年の5.7倍、平年の3.5倍） マアジ12.5トン（前年の1.6倍、平年の78%） スルメイカ6.8トン（前年の44%、平年の60%） マンボウ2.1トン（前年の1.8倍）の順に多かった。

カタクチイワシは北川を中心に入網し、2月の伊豆半島東岸大型定置網8か統全漁獲量の90%を占め、2月のカタクチイワシ漁獲量としては昭和57年以降で最も多かった。また、被鱗体長の中心は11.5～13.0cmであった。サバ類は北川及び谷津を中心にゴマサバ主体で入網し、両漁場を合わせると、サバ類全漁獲量の88%を占め、尾叉長のモードは24～28cmであった。マアジは北川を中心に入網し、尾叉長の中心は16～19cmであった。スルメイカは谷津、富戸及び北川を中心に入網し、外套背長の中心は24～28cmであった。マンボウは赤石及び古網を中心に入網し、全長の中心は70～80cmであった。なお、銘柄ぶりは368kg（前年99.2トンの0.4%、平年12.6トンの3%）で、きわめて不振であった。

漁場別水揚量は、カタクチイワシ及びマアジの漁獲が多かった北川（157トン）、カタクチイワシ及びサバ類の漁獲が多かった谷津（75.7トン）、カタクチイワシ及びスルメイカの漁獲が多かった富戸（64.4トン）の順であった。

[調査船の動向]

富士丸

～2月14日 南方カツオ調査(14日間)

駿河丸

2月3～4日 地先定線観測（駿河湾・遠州灘）(2日間)

2月7～8日 駿河湾内にてサクラエビ IKMT 調査、地先定線観測（駿河湾・伊豆）(2日間)

2月9～10日 地先定線観測（遠州灘）(2日間)

2月14～15日 三宅島沖にてサバ漁場環境調査(2日間)

2月17～18日 久能沖にてトラフグ試験操業(2日間)

2月22～23日 駿河湾内にて静大深層水調査(2日間)